

令和7年度

# 運営に関する計画

【最終評価】

大阪市立野田小学校

令和8年3月

<中期目標の達成に向けた年度目標>

**【安全・安心な教育の推進】**

- ◎ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないと思う」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。  
【R5:84%、R6:79%、R7:80%】
- 校内調査における「健康・安全に過ごすために、きまりやルールを守っている」に対して、肯定的な「当てはまる」と答えた児童の割合を91%以上にする。  
【R5:90%、R6:97%、R7:97%】
- 校内調査における「学級や学校は、安全で居心地の良い場になっている」に対して、肯定的に回答する児童・保護者の割合の平均（※①）を前年度以上にするとともに、最も肯定的な回答の割合（※②）について、児童・保護者とも前年度より向上させる。  
※①【児童…R5:96%、R6:94%、R7:97%】【保護者…R5:96%、R6:94%、R7:96%】  
【平均…R5:96%、R6:94%、R7:97%】  
※②【児童…R5:71%、R6:64%、R7:78%】【保護者…R5:48%、R6:55%、R7:52%】
- ◎ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度以上とする。  
【R5:78%、R6:81%、R7:84%】

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- ◎ 小学校学力経年調査における、国語・算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度よりも減少させる。

**【正答率50%未満の児童の人数】**

国語科	4年生	5年生	6年生
令和5年度	/	3人	4人
令和6年度	18人	0人	0人
令和7年度	9人	3人	12人

算数科	4年生	5年生	6年生
令和5年度	/	3人	6人
令和6年度	9人	3人	11人
令和7年度	16人	16人	11人

- 校内調査における「自分で学習内容や学習方法を決めたり、選んだりしたことがある」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。  
【R5:90%、R6:87%、R7:87%】
- ◎ 小学校学力経年調査における、「学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を50%以上にする。  
【R5:50%、R6:45%、R7:49%】
- ◎ 小学校学力経年調査における「運動（体を使う遊びを含む）やスポーツをすることが好き」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を72%以上にする。  
【R5:71%、R6:73%、R7:73%】

- 校内調査における「病気になるないように、しっかり手洗い・正しいマスクの着用をするようにしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上に保てるようにする。

【R5:95%、R6:95%、R7:96%】

- 校内調査における「苦手なものでも、給食で食べるようにがんばっている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上に保てるようにする。

【R5:91%、R6:92%、R7:95%】

### 【学びを支える教育環境の充実】

- ◎ 授業日において、児童の 8 割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。(ただし、教育委員会事務局が定める学校行事等を ICT 活用が適さない日数を除く)

【R5:0%、R6:0.54%、R7:42.4%】

- ◎ ストレスチェックにおける総合健康リスクの数値を昨年度より減少させる。

【R5:131、R6:122、R7:83】

- 教職員アンケート「授業研究や学力向上支援事業等、さまざまな研修を通じて教師としての成長を感じるか」において、肯定的な回答の割合を前年度より向上させる。

【R6:90%、R7:100%】

- 校内調査において「学校は、子どもたちが安全で安心して学ぶことができるような教育環境づくりに努めていると思う」の項目において、肯定的な回答の割合について前年度以上にする。

【R5:98%、R6:96%、R7:99%】

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### 【安全・安心な教育の推進】

いじめに対する意識の向上や規範意識の定着、安心して過ごせる学校づくりについては、概ね目標を達成することができた。「いじめはどんな理由があってもいけない」と考える児童の割合は目標値に到達し、いじめアンケートやQ-Uの実施、生活指導連絡会による情報共有を通して、早期発見・早期対応の体制が機能した。また、「いじめ・いのちを考える週間」やボードゲーム等を活用した学級集団づくり、縦割り班活動の充実により、児童同士のつながりや自己肯定感の高まりが見られた。あいさつやルール遵守についても高い水準を維持している。一方で、スクールライフノートの相談機能の活用が十分に浸透していないことや、情報共有が一部の教職員にとどまる場面があったことから、より細やかな見取りと組織的な連携の強化が課題である。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めた結果、「進んで学習に取り組む」と回答する児童の割合は前年度を上回り、学習への主体性の向上が見られた。特に、対話活動を重視した授業づくりや振り返りの工夫、自主学習の共有などにより、児童同士が学び合う姿や学習を自分事として捉える姿が広がっている。また、体育科においても「できた」「分かった」と実感できる授業づくりにより、運動への意欲の向上が見られた。一方で学力面では正答率 50%未満の児童数が減少していない学年もあり、個に応じた指導や組織的な支援体制の一層の充実が求められる。また、「学習内容や方法を自ら選ぶ」ことに対する肯定的回答は依然として十分とは言えず、低学年からの系統的な指導の積み重ねが必要である。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

教育 DX の推進や教職員の資質向上、働き方改革の取組により、学びを支える教育環境は大きく前進した。学習用端末の活用は大幅に進み、年間授業日の約 4 割で活用されるなど、日常的な活用が定着しつつある。ICT 研修の充実により教職員の活用力も向上し、授業改善につながっている。また、ストレスチェックの総合健康リスクが大幅に低減し、教職員アンケートにおいても成長実感が 100%となるなど、心理的安全性や働きやすさの向上が見られた。さらに、学校ホームページや各種通信の充実により、教育方針の理解など保護者からの高い評価も得ている。一方で、ICT 活用の質の向上や活用の偏りの解消、業務負担の平準化、地域連携のさらなる活性化などが課題であり、持続可能で効果的な教育環境の構築に向けた取組を継続していく必要がある。

## 大阪市立野田小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>◎ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないと思う」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。 【R5:84%、R6:79%】</p> <p>○ 校内調査における「健康・安全にすごすために、きまりやルールを守っている」に対して、肯定的な「当てはまる」と答えた児童の割合を98%以上にする。 【R5:90%、R6:97%】</p> <p>○ 校内調査における「学級や学校は、安全で居心地の良い場になっている」に対して、肯定的に回答する児童・保護者の割合の平均（※①）を前年度以上にするとともに、最も肯定的な回答の割合（※②）について、児童・保護者とも前年度より向上させる。 ※①【児童…R5:96%、R6:94%】【保護者…R5:96%、R6:94%】 【平均…R5:96%、R6:94%】 ※②【児童…R5:71%、R6:64%】【保護者…R5:48%、R6:55%】</p> <p>◎ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上とする。 【R5:78%、R6:81%】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p><b>取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日々の教育活動において、常にいじめに対する意識を高めていく。日頃から子どもの人間関係を見取り、丁寧に聞き取りを行う。いじめや人権について考える機会や場を設けたり、学級集団づくり（ボードゲームやP A（プロジェクトアドベンチャー）活動など）を行い、子ども同士の繋がりをつくったりして、安心・安全な場を設けていく。</li> <li>○ Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）の実施やスクールライフの相談機能活用を通して、児童の実態把握、いじめの早期発見・早期対応に努める。</li> <li>○ いじめ対策委員会（生活指導連絡会）で児童の状況を情報共有し、組織的な指導を充実させる。</li> </ul>	<b>B</b>
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「いじめ・いのちを考える週間」は、学期に1回（年3回）に拡充して実施し、併せていじめアンケートも実施する。学級集団づくり（ボードゲームやP A（プロジェクトアドベンチャー）活動など）を学期に1回以上行う。</li> <li>○ Q-Uは、6月と12月の年2回実施する。スクールライフノートの相談機能を活用していくよう、適宜声かけを行う。</li> <li>○ いじめ対策委員会（生活指導連絡会）は月1回をベースに定期開催する。</li> </ul>	
<b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ いじめアンケートは計画どおり実施することができた。アンケートに記載された内容については、速やかに聞き取りを行い、早期に解決へとつなげることができた。ボードゲームは、各学級や特別支援学級など、さまざまな場面で活用されており、学級集団づくりに効果を発揮するとともに、児童の豊かな心の育成にもつながっている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「いじめ・いのちを考える週間」では、全校朝会における学校長の講話をはじめ、全校児童に対してメッセージを発信した。学級担任だけでなく、教職員全体で共通の意識をもって取り組むことができた点は大きな成果である。</li> <li>・ 学級集団づくりにおいては、休み時間や学級活動の中でもボードゲーム等を活用しており、子ども同士の関わりやつながりが深まっている様子が多く見られた。</li> </ul> </li> <li>○ 学習端末については、登校後に使用する流れが全体として定着しつつある。特に「心の天気」は、日常的に入力する習慣が広がっている。また、Q-U を年2回実施することで、児童一人一人の変化に気づきやすくなってきている。</li> <li>○ 生活指導連絡会では、生活指導上の課題を抱える児童の様子やいじめ事案について情報共有を行い、共通理解を図った。これにより、いじめの早期発見・早期対応に組織的に取り組むことができた。</li> </ul>	
<b>次年度への改善点</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「いじめは絶対にしてはいけない」という意識を高める指導を継続して行う。あわせて、必要に応じて全校朝会等の場を活用し、当番の教員から全校児童へ発信していく。</li> <li>○ 「心の天気」の内容を継続的に確認することで、いじめの早期発見・早期対応につなげていく。一方で、スクールライフノートの相談機能の活用が十分に浸透していないため、適宜児童へ周知し、気軽に入力できる環境を整える。これにより、些細なサインも見逃さず把握できるようにしていく。</li> <li>○ いじめ対策委員会（生活指導連絡会）の内容については、学年およびなかよし学級内での共有はできているものの、担任外の教員への共有が不十分であるという課題があった。次年度からは教務が中心となって全体共有を行う体制を整える。また、緊急性の高い案件については、必要に応じて職員会議等の場も活用し、迅速な情報共有を図っていく。</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p><b>取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活指導連絡会において、学年・学校全体の規則を守ることにについて課題を確認し、生活指導部員を中心に、組織的に児童の指導に当たる。</li> <li>○ 生活目標に合わせて「礼儀」「規則の尊重」に関する指導や授業を道徳の時間に実施したり、「あいさつ」や「廊下安全歩行」の強調週間を年2回以上実施したりし、児童の規範意識を高める。</li> <li>○ 看護当番からの話や学級・学年指導で、ルールを守ることの意味や必要性を考えられる言葉がけをし、ルールの内在化を図る。</li> </ul> <hr/> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活指導連絡会を月に1回程度行う。</li> <li>○ 「あいさつ」「廊下階段安全歩行」の強調週間を学期に1回以上実施する。</li> <li>○ 校内調査における「見守り隊の人や先生や友達に、自分からすすんであいさつしていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。 【R6:91%】</li> <li>○ 生活指導連絡会で話した内容を児童朝会で看護当番から指導する。</li> </ul>	B
<b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活指導連絡会を月に1回程度開催し、その中で各学年の状況について情報共有を行うことができた。</li> <li>○ 「あいさつ」や「廊下・階段の安全歩行」に関する強調週間を実施した。朝の「おはようございます。」だけでなく、昼の「こんにちは。」と進んであいさつする姿も見られるようになった。</li> <li>○ 校内調査の指標である「見守り隊の方や先生、友達に自分から進んであいさつをしていますか」に対して、肯定的に回答した児童の割合は75%以上を目標としていたが、今年度は90.9%となり、目標を達成することができた。</li> <li>○ 児童朝会において、当番の教員から学校生活の中で気になる点や注意すべき点について指導を行うことができた。</li> </ul>	
<b>次年度への改善点</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「廊下・階段の安全歩行強調週間」にも取り組んでいることから、指標に「21. 学校のきまりやルールを守って生活することができていますか。」の項目を追加する。</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p><b>取組内容③【1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 異年齢集団との交流や価値観の多様性に触れる機会を通して、児童の人権意識の涵養を図るとともに、自己肯定感を高めるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ たてわり班での活動の拡充を模索し、高学年から低学年まで協力して一緒に何かを成し遂げたり遊んだりする場を設ける。</li> <li>・ 集团的宿泊行事や芸術に親しむ体験などを通して、より良い人間関係の形成や心身の健康など、児童の道徳性を養う。</li> </ul> </li> <li>○ ルール（集団で安心して生活するための基本的きまり）とリレーション（安心して本音が言い合えるように人間関係）のバランスが取れた親和的な人間関係のある集団づくりをすすめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Q-Uによるアセスメントを活用し、学級集団の傾向を早期に把握するとともに、分析結果をより良い学級集団づくりに生かす。</li> <li>・ 学級活動等でボードゲームやP A活動を積極的に取り入れ、子ども相互の信頼関係づくりを促進する。</li> </ul> </li> <li>○ 人権研修の参加や、学校全体での児童理解の場面を設定し、教職員の人権意識を高めていく。（人権実践教育の発表や、分科会の参加など）</li> </ul>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年間 20 回以上の縦割り班活動を行う。</li> <li>○ 集团的宿泊行事（5 年自然体験学習、6 年修学旅行）、及び芸術鑑賞会を計画・実施する。</li> <li>○ Q-Uを年 2 回実施し、学級集団の傾向を早期に把握するとともに、分析結果をより良い学級集団づくりに生かせるように、専門家を招聘した研修を実施する。</li> <li>○ 特別支援教育全体会や配慮を要する児童の共通理解の場を年に上半期に 1 回、下半期に 1 回、計 2 回実施する。</li> </ul>	
<b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年間で約 27 回の縦割り班活動を実施した。今年度は異学年交流の機会も多く、昨年度と比べて異年齢集団による交流が一層充実した。縦割り班活動自体も例年以上に活発に行われたが、今後は人権意識のさらなる醸成が課題である。</li> <li>○ 集团的宿泊行事として、5 年生は琵琶湖青少年の家、6 年生は志摩スペイン村・信楽陶芸村での活動を実施した。また、芸術鑑賞会（音楽鑑賞）を全学年対象で実施した。</li> <li>○ Q-Uを年 2 回（6 月・12 月）実施し、その結果を分析して各学級の指導に生かすことができた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボードゲームについては、前年度と比べて有効に活用される場面が増え、学級づくりに寄与している。</li> <li>・ 縦割り班活動では全学年での交流は多く見られた一方で、低・中・高学年ごとの交流は十分とは言えず、今後の工夫が求められる。</li> </ul> </li> <li>○ 特別支援教育全体会を実施するとともに、配慮を要する児童について共通理解を図る場を設け、教職員間での理解を深めることができた。</li> </ul>	
<b>次年度への改善点</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学級数、児童数が減少していくことのメリットを、たてわり班活動に有効活用していく。</li> <li>○ 宿泊行事について 5 年生の宿泊期間等についても効果や費用との</li> <li>○ Q-Uの継続的な利用により、本校全体でQ-Uの値が平均値を越えている。今後は目標値を再設定するとともに価値を高めていく。</li> <li>○ バランス調整が難しいが、教員同士の交流文化を育て、仕組みを作り上げていく。</li> </ul>	

## 大阪市立野田小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況																																
<p><b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>◎ 小学校学力経年調査における、<u>国語・算数の学力に課題の見られる児童の割合</u>を、同一母集団において経年的に比較し、<u>いずれの学年も前年度よりも減少</u>させる。</p> <p>【正答率50%未満の児童の人数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>国語科</th> <th>4年生</th> <th>5年生</th> <th>6年生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td>3人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>令和6年度</td> <td>18人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>令和7年度</td> <td>9人</td> <td>3人</td> <td>12人</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>算数科</th> <th>4年生</th> <th>5年生</th> <th>6年生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td>3人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>令和6年度</td> <td>9人</td> <td>3人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>令和7年度</td> <td>16人</td> <td>16人</td> <td>11人</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 校内調査における「自分で学習内容や学習方法を決めたり、選んだりしたことがある」に対して、<u>肯定的な回答をする児童の割合を90%以上</u>にする。 【R5:90%、R6:87%、R7:87%】</p> <p>◎ 小学校学力経年調査における、「学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、<u>最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を50%以上</u>にする。 【R5:50%、R6:45%、R7:49%】</p> <p>◎ 小学校学力経年調査における「<u>運動（体を使う遊びを含む）やスポーツをすることが好き</u>」に対して、<u>最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を72%以上</u>にする。 【R5:71%、R6:73%、R7:73%】</p> <p>○ 校内調査における「<u>病気にならないように、しっかり手洗い・正しいマスクの着用をするようにしている</u>」に対して、<u>肯定的に回答する児童の割合を90%以上</u>に保てるようにする。 【R5:95%、R6:95%、R7:96%】</p> <p>○ 校内調査における「<u>苦手なものでも、給食で食べるようにがんばっている</u>」に対して、<u>肯定的に回答する児童の割合を90%以上</u>に保てるようにする。 【R5:91%、R6:92%、R7:95%】</p>	国語科	4年生	5年生	6年生	令和5年度	/	3人	4人	令和6年度	18人	0人	0人	令和7年度	9人	3人	12人	算数科	4年生	5年生	6年生	令和5年度	/	3人	6人	令和6年度	9人	3人	11人	令和7年度	16人	16人	11人	B
国語科	4年生	5年生	6年生																														
令和5年度	/	3人	4人																														
令和6年度	18人	0人	0人																														
令和7年度	9人	3人	12人																														
算数科	4年生	5年生	6年生																														
令和5年度	/	3人	6人																														
令和6年度	9人	3人	11人																														
令和7年度	16人	16人	11人																														

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p><b>取組内容④【4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全ての児童が基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得できるようにし、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究にも対応させ、対話的活動の継続と深まりを生み出す授業づくり</li> <li>・振り返りの継続と質的な向上（学習内容の振り返り＋学習方法の振り返り）</li> </ul> </li> <li>○ 児童一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等を柔軟な提供・設定を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力低位層への支援</li> <li>・児童の学びを見取る場の設定や見取る技術の共有（記録に残す）</li> </ul> </li> <li>○ 各学年において、自主学習を計画的に取り組み、主体的に学習に取り組む態度の養成し、学習習慣の定着を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主学習ノートを共有する場をつくる</li> <li>・児童に任せる部分や時間を増やし、児童の主体性につなげる。</li> </ul> </li> </ul> <hr/> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校内調査における「授業では、自分から進んで学習に取り組んでいる」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より向上させる。 【R5:89%、R6:87%】</li> </ul>	B
<b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 以下の取組により、指標である「肯定的に回答する児童の割合」は、中間 87.5%から期末 90.5%へと向上し、前年度を上回って目標を達成することができた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・めあて（学習問題）を設定し、その解決に向けて子どもが主体的・対話的に調べたり考えたりしながら、まとめや振り返りを行う問題解決的な学習を進めることができた。</li> <li>・振り返りの視点については学校全体での統一は図られていないが、各学年・学級の実態に応じた方法で実施することができた。学年に応じた取組が定着している。</li> </ul> </li> <li>※ 3・4・5年生を中心に「対話」を研究テーマとして位置付け、学びを深める姿が定着してきた。また、1年生から「振り返り」を習慣化したことで、次の学びにつなげようとする意識が育っている。一方で、音楽や図画工作、体育等の実技教科における振り返りの質については、今後検討の余地がある。</li> <li>・各学年において、児童の実態に応じた指導方法や教材、学習時間等を柔軟に設定し、学力低位層への支援や、自分に合った学び方の獲得につなげることができた。</li> <li>※ 学力低位層への支援については、習熟度別学習の廃止により、個々の担当に委ねられている側面が見られ、組織的な支援体制の弱まりが課題として考えられる。また、学びの見取りはノート記述が中心となっているが、特に実技教科においては、学習過程の記録が十分でない可能性がある。</li> <li>・各学年で自主学習への意欲を高める工夫を行うとともに、自主学習ノートを正門付近に掲示した。その結果、他の児童や他学年へのよい刺激となり、掲示された児童自身の意欲向上にもつながった。</li> <li>※ 玄関への「自主学習共有ボード」の設置により、児童同士がよい取組を参考にし合い、認め合う好循環が生まれている。また、英語や理科の専科を中心に、児童に任せる時間を意図的に設定する実践が、主体的に学習に取り組む態度の育成につながっている。※ 自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度の育成に関しては、学習の方法を自分で選ぶこ</li> </ul>	

とは急にできることではなく、それまでの指導が必要であり、低学年からの段階を踏んだ指導を継続していくことが必要。

#### 次年度への改善点

- 自己調整しながら学習を進める力を育成するため、資料や指導方法を工夫し、児童の自主性を発揮できる場면을意図的に設定していく必要がある。
  - ※ 児童が自ら計画を立てて学習に取り組む場を増やしていく。
- これまでの「学習内容」の振り返りに加え、「どのように学んだか（学習方法）」を言語化する振り返りを取り入れていく。
  - ※ 特に実技教科においては、ICT（動画・写真）を活用した振り返りを導入し、技能の変容を児童・教師の双方が可視化できるようにする。
- 次年度に検討されている学年内教科担当制やデジタル教材の活用により、「指導の個別化」を一層推進し、特定の担当者に負担が集中しない支援体制を整備していく。
- 自主学習ノートの個人評価や掲示は、児童の学習意欲の向上に効果が見られるため、今後も継続していく。また、取組に変化をもたせる工夫も行っていく。
  - ※ 自主学習の習慣を授業にも取り入れ、課題の難易度や学習順序を児童自身が選択・決定できる「任せる場面」を計画的に設定する。
  - ※ 玄関ボードでの掲示は継続しつつ、デジタル上でも即時に全校共有できる仕組みを整え、学級・学年間の差の解消を図る。
  - ※ 学校全体で取り組む期間の設定や掲示方法の工夫、異学年交流の実施など、取組の充実を図っていく。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p><b>取組内容⑤【4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究テーマに基づいた実践を日々の授業の中で積み重ね、授業研究及び研究協議会を通して学校全体で共有し、「個が輝き、共に育ちあう学級」のための実践研究に取り組む。</li> <li>○ 研究全体会や校内研修会を実施し、授業規律の統一や授業づくりの共通理解を学校全体で図り、教員の指導力向上に取り組む。</li> <li>○ 子どもが自分で学習方法を選択したり、学習内容を決めたりする授業づくりに取り組む。(個別最適な学び)</li> <li>○ 友だちと話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする授業づくりに取り組む。(協働的な学び)</li> </ul> <hr/> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各学年1回、全体で6回以上の授業研究及び研究協議会を実施する。</li> <li>○ 研究全体会や校内研修会を3回以上実施する。</li> <li>○ 校内調査における「自分で学習内容や学習方法を決めたり、選んだりしたことがありますか。」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を前年度以上にする。 【R6:46%】</li> <li>○ 校内調査における「授業では、課題を、学級の友達と話し合って学習することがよくありますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を前年度以上にする。 【R5:75%、R6:76%】</li> </ul>	B
<b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 計画どおり全6回の授業研究を実施し、目標を達成することができた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学年の実態に応じたテーマ設定と専門講師の招聘により、教員の指導力向上と児童の資質・能力の育成につなげることができた。</li> </ul> </li> <li>○ 研究全体会を3回、校内研修会を6回実施し、目標を達成した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員の意見を反映した運営により、校内全体で研究を深めることができた。一方で、質疑応答の時間が十分に確保できなかったことや、長期休業中のニーズに応じた研修設定については課題が残る。</li> </ul> </li> <li>○ 児童の肯定的な回答は47.4%（前年度46%）となり、目標は達成した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選択肢のある授業や自主学習の推進により主体性の育成は見られるが、全項目の中で唯一50%を下回っており、計画的に「選ぶ・決める」場面を設定していくことが課題である。</li> </ul> </li> <li>○ 児童の肯定的な回答は80.3%（前年度75%）となり、大幅に目標を達成した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「答えのない問い」の設定やボードゲーム等を活用した学級づくりにより、対話を通じた合意形成や学びの深まりが定着してきている。</li> </ul> </li> </ul>	
<b>次年度への改善点</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今年度の成果を基盤として、指導者・児童の双方がより深い学びを得られるよう、研究授業および協議会の在り方について継続的に工夫・改善を図っていく。</li> <li>○ 各学年の進捗状況を共有する中間報告会を設定するとともに、協議会における質疑応答の時間を十分に確保する。また、長期休業期間等を活用し、教員のニーズに応じた多様な研修機会を計画的に設定していく。</li> <li>○ 肯定率50%の達成を目指し、教員が学びの道筋を示しつつも、児童自身が学習内容や方法を選択・判断できる場面を、低学年から系統的に学校全体で推進していく。</li> <li>○ 児童が「話し合いたくなる問い」を精査するとともに、児童の多様な意見をつなぎ、学びを深めるためのコーディネーターとしての教師の指導力向上を図っていく。</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p><b>取組内容⑥【5 健やかな体の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主体的に運動に取り組み、授業の中で「できた」「動きの質)がかわった」と実感し、個人の課題を明確にできるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の初めに目標を提示し、最後に振り替える活動を行う。</li> <li>・NHK for school でお手本の動きを見て、動きのポイントを知っておけるようにする。</li> <li>・ワークシートにポイントを明示したり、ICT 機器を活用し自分の動きを可視化したりするとともに、友達の動きでよかった点もふりかえられるようにすることを通して、動きの向上につとめる。</li> </ul> </li> <li>○ 普段の休憩時間など、体育の授業時間以外の場において、体育の活動につながる多様な動きを取り入れ、体力・運動能力の向上につながるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級あそび、学年集会、きょうだい学年交流、たてわり班など</li> <li>・運動委員会の活動の一環として行う。</li> </ul> </li> <li>○ 準備運動、ストレッチなど実技研修を行う。</li> </ul> <hr/> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校内調査における「体育の授業の中で、できた、わかった、あきらめずに取り組んだ、(自分の動きの質が) 変わったと感じられることがある」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を前年度から下げないようにする。 【R5:95%、R6:95%】</li> <li>○ 運動委員会の活動の一環として、年2回、体を使った遊びを紹介し、運動委員会を中心とした遊びの時間を実施する。</li> </ul>	B
<b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校内調査における「体育の授業の中で、『できた』『わかった』『あきらめずに取り組んだ』『(自分の動きの質が) 変わった』と感じられることがある」に対して、肯定的に回答した児童の割合は97.7%であった。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学級において、体育の授業前に「NHK for School」を活用して動きを確認したり、運動の様子を録画して振り返ったりするなど、動きの改善に主体的に取り組む姿が見られた。</li> </ul> </li> <li>○ 運動委員会の活動の一環として、年2回、体を使った遊び（「走り方講座」「鬼ごっこ）」を紹介し、委員会を中心とした遊びの時間を実施した。運動を通じた交流など、着実な実践が積み重ねられている。また、熱中症予防ポスターや、水泳授業時に使用するトイレのスリッパに関する呼びかけポスターを掲示するなど、啓発活動にも取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・休み時間には、一輪車や竹馬などに積極的に取り組む児童の姿が増えている。体育の授業以外の場面でも体を動かす機会が広がり、「できるようになった」という達成感を味わう児童が増えている。</li> </ul> </li> </ul>	
<b>次年度への改善点</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学年間のつながりに課題が見られるため、運動のスムーズステップ化や感覚づくりの動きについて、段階的に共有を進め、系統的な指導につなげていく。</li> <li>○ 学校全体として、各領域における学習を系統立てて進められるよう、指導内容の整理と共通理解を図っていく。</li> <li>○ これまで三脚やタブレットを活用して録画を行っていたが、現行の端末は画面の取り外しができないため、手で持ったり、跳び箱の上に置いたりして対応している状況である。より安全かつ効果的に活用できるよう、代替手段について検討していく。</li> <li>○ 委員会活動を中心とした異学年交流においては、運動場の使用方法を工夫し、より広く安全に活動できる環境づくりを進めていく。</li> </ul>	

## 大阪市立野田小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>◎ 授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、<u>年間授業日の50%以上</u>にする。（ただし、教育委員会事務局が定める学校行事等をICT活用が適さない日数を除く） 【R5:0%、R6:0.54%】</p> <p>◎ ストレスチェックにおける<u>総合健康リスクの数値を昨年度より減少</u>させる。 【R5:131、R6:122】</p> <p>○ 教職員アンケート「授業研究や学力向上支援事業等、さまざまな研修を通じて教師としての成長を感じるか」において、<u>肯定的な回答の割合を前年度より向上</u>させる。 【R6:90%】</p> <p>○ 校内調査において「学校は、子どもたちが安全で安心して学ぶことができるような教育環境づくりに努めていると思う」の項目において、<u>肯定的な回答の割合について前年度以上</u>にする。 【R5:98%、R6:96%】</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p><b>取組内容⑦【5 健やかな体の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保健だよりや学級指導を通して、健康に関する指導を行う。感染症予防のために正しい手洗いの方法を伝え、日常の指導を徹底する。</li> <li>○ 手洗いや清潔なハンカチを身につけるように、意識の向上を図る。</li> <li>○ 学校教育活動全体を通して、適宜、食に関する指導を行う。</li> </ul> <hr/> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保健だよりを年に10回以上発行する。</li> <li>○ チェックカードや手洗いの歌を活用した手洗い強調週間を学期に1回行う。</li> <li>○ 給食の時間に発達段階に応じて給食カレンダーの活用をし、給食がんばりカードを年に2回以上実施する。</li> </ul>	<b>B</b>
<b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保健だよりは2月までに計12回発行した。</li> <li>○ 手洗い強調週間は前期・後期の2回実施し、児童の意識は着実に向上している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手洗い強調週間では、「手洗い・ハンカチW週間」として、手洗いに加え清潔なハンカチの持参を呼びかけた。委員会によるポスター掲示や放送での呼びかけ、学級での指導を通して意識が高まり、チェックカードで「できた」と回答した児童は、手洗いが97%、清潔なハンカチの所持が93%となり、いずれも前期を上回った。</li> <li>・ 学校アンケートにおける「病気にならないように、しっかり手洗いをしていますか。」の項目では、「とてもあてはまる」と回答した児童が、中間の72.9%から期末には77.8%へと向上した。</li> <li>・ 後期からは給食前に手洗いの歌を放送で流す取組を始め、口ずさみながら丁寧に手洗いを行う児童の姿が多く見られるようになった。</li> </ul> </li> <li>○ 給食の時間には、発達段階に応じて給食カレンダーを活用するとともに、「給食がんばりカード」を年2回実施した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「好き嫌いせず給食を食べるようにがんばっていますか。」に対して、「とてもあてはまる」と回答した児童は中間の77.5%から期末73.6%へとやや減少したものの、「あてはまる」を含めた肯定的回答は94.1%から95%へと増加している。このことから、特に苦手意識のある児童においても、前向きに食べようとする意識の高まりが見られる。</li> </ul> </li> </ul>	
<b>次年度への改善点</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保健だよりは、今後も継続的に発行を行い、内容のさらなる充実を図っていく。</li> <li>○ 強調週間だけにとどまらず、年間を通してハンカチを携帯する習慣が定着するよう、継続的な意識向上に向けた取組を検討していく。</li> <li>○ 最も肯定的に回答した児童の割合に低下が見られることや、年間を通して残食が多い現状を踏まえ、給食がんばりカードに工夫を加えるなど、取組に変化をもたせることで、児童の意識向上を図っていく。</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成 状況
<p><b>取組内容⑧【6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 心の天気の入力を各学級毎日行う。</li> <li>○ 各学年、SKYMENU（学習支援ソフト）を活用した学習を実施する。</li> <li>○ ICT 機器の活用研修を行い、教職員の ICT 機器活用技術を高めて学習への活用を促進させる。</li> <li>○ 各教科の振り返りや自主学習でデジタルドリルの活用を進める。</li> </ul>	
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 心の天気の使用率を8割以上にする</li> <li>○ SKYMENU を活用した学習を各学年で、3単元以上行う。</li> <li>○ ICT 機器の活用研修を年間3回以上行う。</li> <li>○ デジタルドリルを年10回以上活用する。</li> <li>○ 校内調査において「授業では、一人一台パソコンをつかったり、タブレットをつかったりしていますか。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を95%以上にする。</li> </ul> <p>【R5:94%、R6:94%】</p>	<b>B</b>
<b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「心の天気」の使用率が8割以上となる日が、ほぼ毎日見られるようになっている。</li> <li>○ SKYMENU を活用した学習は、年間3単元以上の実施について、概ね達成することができた。</li> <li>○ 研修を年間4回、計画的に実施した。その結果、端末がChromebookに変更され操作感に変化したものの、ICTの活用は昨年度と比べて大幅に向上している。</li> <li>○ デジタルドリルは年間10回以上活用しており、加えて他のアプリやWebコンテンツの活用も進んでいる。</li> <li>○ 校内調査における肯定的回答の割合は、中間94.6%、期末93.8%であり、目標にはわずかに届かなかったものの、概ね目標どおりの成果を上げることができた。</li> </ul>	
<b>次年度への改善点</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ デジタルドリルを活用した宿題配信についても、今後検討していく。</li> <li>・ クラスルームを活用し、ICTを取り入れた授業実践の報告や情報共有を進めていく。</li> <li>・ Chrome book の活用方法に関する研修や交流会を、計画的に実施していく。</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p><b>取組内容⑨【7 人材確保・育成としなやかな組織づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ICT機器の活用により業務の効率化と能率化を図り、勤務時間を短縮し、教職員が集まって行う会議を精選する。</li> <li>○ ゆとりの日を週に1回、実施する。</li> <li>○ 教職員の強みを共有する</li> <li>○ 教職員間での組織開発研修を可能な限り実施することで、結果としての心理的安全性①話しやすさ、②助けあい、③挑戦、④新奇歓迎)の醸成をめざす。</li> <li>○ 中堅・ベテラン教師を講師としてメンター研修を行い、若手教員の指導力の育成を図る。</li> </ul>	<b>B</b>
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年間の時間外勤務時間が45時間を超える延べ人数を昨年度より減少させる。 【R5:52人、R6:21人】</li> <li>○ 小学校学力経年調査の学級担任質問の「学級運営の状況や課題を学年等の教職員の間で共有し、組織的に取り組んでいる」の肯定的な回答の割合を昨年度より向上させる。 【R5:73%、R6:90%】</li> </ul>	
<b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 4月から1月までの年間において、時間外勤務が45時間を超えた教職員は34人となり、すでに昨年度を上回っている。一方で、中間評価時と同様に、教員一人あたりの時間外勤務時間はすべての月で昨年度より減少しており、学校全体としては勤務時間の軽減が進んでいるといえる。多忙な業務の中でICTを効果的に活用し、教職員が工夫しながら業務に取り組んできたことや、職員会議の効率化、スキップ等による情報共有の工夫が成果につながっていると考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ゆとりの日」は週1回設定しているが、意識しつつも十分に確保できない場合も多く、運用面に課題が見られる。</li> <li>・ 教職員一人一人の強みが生かされつつある一方で、特定の教職員に偏ることなく、多様な強みが発揮される体制づくりが求められる。</li> <li>・ 組織開発研修は実施していないものの、ストレスチェックの数値は昨年度の122から今年度は83へと大幅に改善している。職場のサポートに関する数値も高く、心理的安全性の向上が見られる。</li> <li>・ メンター研修については、メンターに限らず多くの教職員が参加する機会となり、学び合いの場として機能している。</li> </ul> </li> <li>○ 小学校学力経年調査における学級担任質問「学級運営の状況や課題を学年等の教職員間で共有し、組織的に取り組んでいる」についての肯定的回答は87.5%であり、目標にはわずかに届かなかった。組織的な取組自体は行われているものの、情報共有の在り方については、管理職も含めてより一層意識を高め、共有の場や仕組みを整えていく必要がある。</li> </ul>	
<b>次年度への改善点</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教職員それぞれのライフスタイルや働き方の違いが尊重されるべきであることを踏まえると、「時間外勤務者の人数」を指標とすることには課題がある。そのため、来年度からは「教員一人あたりの時間外勤務時間」を指標とすることについて検討していく。</li> <li>○ 教職員の強みを発揮するためには、それを生かせる環境づくりが不可欠である。互いを認め合い、力を発揮しやすい職場環境を整えるとともに、抽象的な議論にとどまらず、具体的な取組や方策を検討・実施していく必要がある。</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p><b>取組内容⑩【9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校と地域とのつながりを継続できるように、地域との交流（清掃活動・ゲストティーチャー招聘・食事サービス事業との交流）や地域の良さ（見守り隊やPTA活動）を生かす教育活動を実施する。</li> <li>○ 学校と家庭・地域がより協働できるように、学校ホームページの更新の頻度を高め、保護者連絡アプリ、学年だより、学級通信や日々の連絡等を実施することで、教育活動の意図が伝わるようにする。さらにそれに対するフィードバックに丁寧に対応する。</li> <li>○ 子どもが教育活動に専念できるように、施設の整備や学習環境づくり（もの・こと・教員へのサポート等）に取り組む。</li> </ul> <hr/> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校内調査における「学校の教育方針は伝わっていますか」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を90%以上にする。【R5:88%、R6:90%】</li> <li>○ 校内調査「学校は保護者や地域の人たちとコミュニケーションを図るように努めていると思いますか」において、肯定的な回答をする保護者の割合を昨年度より向上させる。【R5:95%、R6:93%】</li> </ul>	A
<b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校内調査における「学校の教育方針は伝わっていますか」に対して、肯定的に回答した保護者の割合は92%であり、目標を達成している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校ホームページの更新頻度の向上や「校長室だより」による発信の充実により、教育方針が保護者に伝わりやすくなったと考えられる。</li> </ul> </li> <li>○ 校内調査「学校は保護者や地域の人たちとコミュニケーションを図るように努めていると思いますか」に対する肯定的回答は93%で、前年度と同水準であった。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゲストティーチャーの活用や地域との交流など、従来の取組は継続しているが、一部では形骸化している可能性もある。数値も高止まりの傾向にあり、さらなる向上には至っていない。今後は、保護者との連携に対して否定的な意見の背景にあるニーズを把握し、対応していくことが重要である。</li> <li>・ 施設整備や学習環境づくりには取り組んできたものの、それが児童の学習活動の充実や保護者の満足感の向上に十分につながっていない面も見られる。保護者のニーズを的確に捉えた取組の工夫が求められる。</li> </ul> </li> </ul>	
<b>次年度への改善点</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校の教育「活動」に関する発信は増加しており、そのことが結果として教育方針の理解を補う役割を果たしている。一方で、いじめ対応を含む保護者対応においては、学校の対応方針が十分に伝わっていないと感じられる場面もある。今後は、状況に応じた柔軟な対応を行いつつ、学校としての一定の指針を明確に示していくことが重要である。</li> <li>○ 地域の方々を含む外部との連携と、保護者とのコミュニケーションでは、それぞれ求められるニーズに違いが見られる。そのため、一律の取組ではなく、それぞれの対象に応じた個別対応を工夫し、多様なニーズに応えられるようにしていく。</li> </ul>	